

東 建 発 第 7 9 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

愛知県東郷町長 川 瀬 雅 章



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙
のとおり回答します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

愛知県東郷町

1 平成 20 年 6 月 1 日施行の道路交通法改正では、自転車利用者対策ということで歩道通行可能要件の明確化がなされ、原則的には自転車は車道通行となりました。歩行者と自転車との歩道上での事故や、本来自転車は車道通行であるために、明確化も止むを得ないことかと思えます。しかし一方で、自転車が通行する車道の路肩が十分に確保されていない市町村道が多く、自転車通行に危険が伴うことも事実であります。したがって、制度改正に当たっては、住民との一番身近な自治体の実情を把握された上で、必要な対策を講ずるなど計画性を持って取り組んでいただきたい。

2 道路特定財源を巡って、新聞紙上では「特定財源の不適切な支出」ということで、一部の道路特定財源の本旨から逸脱した用途に使われているとして報道されています。また、特定財源に頼っている財団法人への天下り人事に対しても、合わせて報道され、世間の厳しい目が「特定財源」に対して注がれています。

本町では、地方道路譲与税など 3 税の道路特定財源約 2 億 7 千万円は、すべて道路新設改良費及び維持費に当て、かつ多額の一般財源を充当しており、およそ「不適切な支出」というのは、まったくの無縁であります。さらに、今後増大する道路インフラの維持管理費に対しては、その財源に苦慮しています。

したがって、国におかれましては、道路特定財源の「無駄使い」を指摘されないように、適切な支出に配慮するとともに、道路財源の地方分の増額を切に希望いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②-1 地域の現状と抱える課題

愛知県東郷町

○現状

大都市の名古屋市と中核市の豊田市の間に位置しているが、独自色が出せないで、通過交通の町に甘んじている。また、東部尾張地域は、研究開発団地や、物づくり産業集積を図るべき地域として期待されているが、本町は他の市町に比べ企業誘致への取組に遅れを取っている。

道路・鉄道交通網は、名古屋から放射線状に充実しているが、南北ラインが脆弱で、名古屋市周辺市町のネットワークが取りにくい。

国道、県道は、概ね歩道が整備されているが、町道においては、主要な道路にあっても、未整備区間が相当区間存在する。

道路供用延長の延伸とともに道路維持管理費が増大するが、財源不足により適正な維持管理ができない。

○課題

東名高速道路「東名三好 IC」や国道 153 号線などの道路交通の大動脈を活用したまちづくりが求められている。幹線道路沿いに開発適地が存在するものの、農振農用地指定などの土地利用規制により、都市的利用が進まないでいる。主要幹線道路沿線の土地利用規制の緩和について、高いハードルに悩まされている。

大都市周辺の環状機能を有する公共交通機関（鉄道等）の充実と道路網の整備が必要となっている。行政界の枠にとらわれないコミュニティーバスの運行などは、費用的にもっとも実現性が高いと考え、近隣市町で知恵を出しあっている。

道路交通法の改正により、自転車の歩道通行要件が明確となり、自転車は、原則的に車道通行が義務付けられた。そのため、町としては、交通安全の観点から自転車走行空間の整備が急務であるが、財源不足により手が付けられない状況にある。

維持管理費の節約も限界に達している。道路の適正な維持管理をするため、国から地方への財源委譲が必要であると認識している。

②－２ 地域の目指すべき将来像

愛知県東郷町

大都市名古屋市と中核市豊田市の中間に位置し、その地理的要因から両市のベッドタウンとして人口は伸び続けている。両都市を結ぶ大動脈として国道153号豊田西バイパスが町中央部分を横断しているが、通過交通が多く町内各所で渋滞が生じている。鉄道駅を持たず道路交通に頼っている本町では、通勤、通学に時間の要する状況にある。また、町内には小規模な工業団地を有するものの、尾張東部地域の他の市町に比べて、法人税の割合が低い状況にある。

そのため、ベッドタウン化に頼る体質を見直し、職住近接型への変換と財政基盤の強化を目指すため、企業誘致を進めていこうとしている。しかし、企業立地好適地の土地利用規制により、なかなか進んでいけないジレンマに陥っている。また、第1次産業である農業も、後継者不足を主原因として農地の荒廃を招いているが、職住近接型産業の典型であるので、団塊の世代を農業学校の開設などで、農業従事者の掘り起こしを進めたいと思っている。さらに農業の地産地消による消費の拡大や特産物の開発、農作物のブランド化に取り組みつつある。

本町のふるさと資源として、愛知用水の調整池である愛知池（愛知県有数のレガッタ競技場）を有しており、競技を通じて「水と緑とボートのまち」として全国に発信している。

本町の将来像は、名古屋市東部に隣接するベッドタウンとして地の利を伸ばしつつ、豊かな自然に囲まれ、職住近接で時間的にもゆとりのある生活ができ、買い物も町内で済ませられるようなバランスの取れたコンパクトシティを標榜し、町内移動には、徒歩あるいは自転車で移動でき、暮らせるまちづくりを目指している。これには、道路改良、歩道設置、自転車道設置、バリアフリー化など多方面に渡る道路インフラの整備が必要不可欠になっており、その整備に必要な道路財源の確保が課題となっている。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項

愛知県東郷町

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他
広域道路ネットワークの推進	国道 153 号豊田西バイパスの 8 車線化 名古屋環状 2 号線の早期開通 未着手都市計画道路（日進三好線など）の事業化の促進	現在、4 車線化が完了したが、交通量の増加に伴い町内各所で渋滞が生じている。都市計画決定されている完成形の 8 車線化により渋滞の緩和が期待される。 名古屋周辺地域の道路ネットワーク化により、主要地方道瀬戸大府東海線などの渋滞緩和が図れる。 「東名三好 IC」へのアクセスの向上とそれに伴う周辺土地利用の促進。地域活力の向上。	
自転車利用の促進	幹線町道の自転車歩行者道設置を図り、国道道との自転車走行空間ネットワークを確保する。町道合ヶ丘新池線外。	歩行者・自転車の安全確保。 車社会から脱却し、環境負荷の軽減を図る。	
住環境の向上	住民に一番身近な道路の適正な維持管理とバリアフリー化の推進。 町役場周辺のモデル地区など。	舗装や歩道の段差を解消して、誰にもやさしいまちづくりの実践。	